



巨大開発より市民生活を応援する施策を

平成30年度決算一般会計の実質収支は約20億円の黒字となっています。これは事務事業の見直しを始め、信用保証料の見直しや小学校調理業務の民間委託など、平成28年から30年度に165項目にわたる事務事業の廃止・縮小、職員定数の削減を実施した結果です。震災後、毎年一般会計の黒字が続き、120億円のお金が基金としてあります。

市民のくらしは消費税増税など苦しくなる一方です。

高齢化が進み、若者の非正規雇用が4割といわれている状況を見ても市民サービスに力を入れるべきで、新中央区役所の移転整備約95億円、本庁舎2、3号館の整備に約360億円を今かける必要はないと質しました。

須磨水族園 ― 黒字経営なのに、なぜ身売り!

気軽に行ける水族園から、お金がないと行けない水族園に

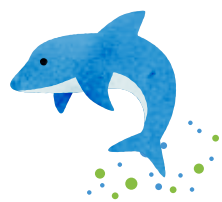
須磨水族園は年間100万人が入園し、利用者の25%が年間5回以上を利用するなど、市民から親しまれ、この10年間黒字となっています。

市はこの水族園を、長期滞在型のリゾート地にしようとしています。大きな問題は入園料が上

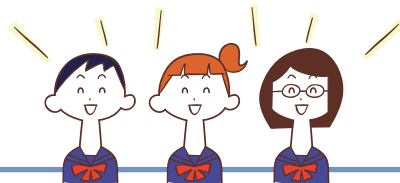
がり、気軽に行くことができなくなることです。

「スマスイを子どもから取り上げるな」と、反対の声が上がっています。観光リゾート開発のための須磨水族園の身売りをやめさせるためにがんばります。

料金表	大人	小人	幼児
須磨水族園	18歳以上 1,300円	500円	無料
現在	15~17歳 800円	小中学生のびのびバスで 入場すれば無料	
新料金	3,100円	1,800円	3歳以下無料
海遊館	2,300円	1,200円	4歳以上 600円 3歳以下 無料
鴨川シーワールド	3,000円	1,800円	4歳以上 1,200円 3歳以下 無料



女子中学生のズボン着用へ一歩前進 防寒対策・ジェンダー平等



中学生になったとたん女子は標準服・スカートという決まりに、「防寒」「ジェンダー」の観点から、全国で見直しが始まっています。今井議員は一昨年、教育委員会の質疑の中で全国の動きや、保護者から寄せられている「子どもが『スカートはきたくない』といっている」という声を紹介。当局から「検討を始めたい」という答弁がありました。

昨年、8月に「神戸市中学標準服のあり方に関する検討会」が設置され、検討会では「先進的な

学校では、女子がスラックスを履くことを認めるのはすでに当たり前の話」「女子スラックスを導入しても、(一中略)性別違和をもっていることが明らかになる可能性があるので(一中略)、スラックス導入の理由として『防寒対策』を加えることも重要である」などの意見が出され、今年度中に結論を出すとしています。現在でも、神戸では保護者や子どもがズボンを希望した場合は、学校の判断でズボンを容認しています。

2020年も希望ある年に



神戸市会議員 **今井まさこ**

暮らし・子育て 安心・安全・便利な垂水区を

垂水駅前の再開発(販売市場)は、垂水市民にとって大切な問題です。しかし、多くの区民に知らされることなく、どんどん進められています。

垂水小学校に子どもさんを通わせている保護者からは「マンションができれば子どもが増える。今でも狭い校庭がもっと狭くなる」

近隣の商店からは「工事が始まれば騒音、大型トラックの走行問題などどうなるのか」商店街利用者からは「超高層ビルが建てば、ビル風は大丈夫か?」「昔ながらの店はどうなるのか」などの声が寄せられています。市は「民間開発だから」と責任回避していますが、今後たくさんの税金が投入される計画です。区民に丁寧な説明と、疑問にもきちんと答えるように、市としての責任を果たすべきではないでしょうか。



垂水体育館と垂水勤労市民センター体育室・トレーニング室 平磯に移転・統廃合計画の中止を

移転・統廃合についての「市民意見」が400人から寄せられるなど関心の高さを示しています。垂水勤労市民センターの体育室前におかれた「意見箱」には223人もの方が意見を上げています。「今のところはバス停からも近くて利用できた。移転には反対」「移転したらもう利用できない」「この場所で太極拳をさせてほしい」の声が寄せられています。今井議員は「勤労市民センターの移転統廃合によって、勤労市民センターを利用していた高齢者が利用できなくなる」と計画の撤回を求めましたが、当局は「垂水区の公的施設の整備を進めていくために、移転統廃合は必要」と、区民の声にこたえない姿勢を示しました。



敬老パス・福祉パスの改悪ストップ 市民の足を守れ



市の予算の0.08%分で維持できます

昨年6月、兵庫県バス協会から神戸市に負担金の増加を求める申し入れがあり、有識者会議が開かれ、4回目に見直しを盛り込んだ報告案が出されました。これを受けて神戸市は、**①敬老パスの低所得者向け無料乗車券(年3万円分)は廃止、②市バスの長距離路線は小児料金にして現在の一律110円から値上げ、③母子世帯は無料乗車できる福祉パスを廃止し、父子世帯を含めた高校通学定期助成に転換**という負担増の改悪案を提起しています。多くの市民が改悪反対の声を上げ短期間で2万4000筆の署名が集まり、市長に提出。ま

た、11月議会で「有識者会議の委員に当事者の市民を入れ声を聞くべきだ」との質問に対して市長は「署名の内容は読めば分かる。それ以上意見を聞く必要はない」という冷たい態度で市民に背を向けています。

引き続き署名を大きく上のせして、「改悪反対」の声を市民とともに上げていきます。



垂水駅東口 市民と対話

今年4月 総合福祉センター(中央区)にひきこもり相談室の開設へ

内閣府(2015年調査)によると大人のひきこもりは全国69万人(神戸では推計約7000人)いるといわれ、年々増え続け、ひきこもりも長期化しています。生きづらさに悩み苦しんでいる人たちや家族を理解し、どのように寄り添い援助すべきかが行政に問われています。今井議員は一般質問でこの問題を取り上げ、「全区に、相談窓口、居場所を開設」するように求めました。市は、2020年4月に新しく総合福祉センターに「引きこもり相談窓口」を設け、ここが中心となって各区の引きこもり対策を行うと答弁しました。

今後増えるとされるひきこもりで苦しむ当事者、高齢化している親が、悩みや苦しみを語り、「自立・自活」への第一歩を踏み出せる居場所が求められています。

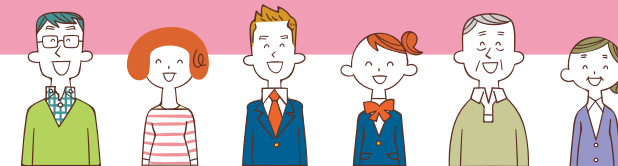
中学校でも小学校のような温かい給食を！ 親子方式のモデル実施へ

中学校給食を求める運動に押され、市は中学校給食を2年前から実施。しかし、民間業者が運んでくるデリバリー方式のため、「冷たい」「おいしくない」と不評で、利用率は30%台という異常事態です。日本共産党の質疑の中で、当局は「親子方式も検討」と答弁。自校方式ではありませんが、小学校でつくって、中学校へ運んでいくというもので、「温かく、調理している人が見える」方式へと大きく前進です。実施校の対象は、今後調査検討がおこなわれ、今年度中には学校を決めたいとしています。



都市空間向上計画(案)

皆さんの声が力に! 神戸市の計画が破たん!



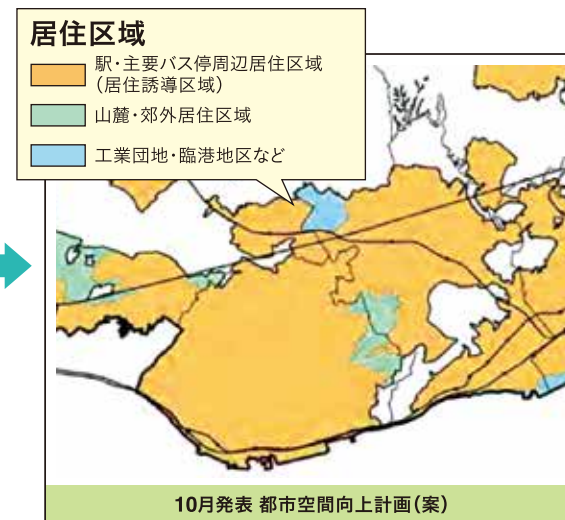
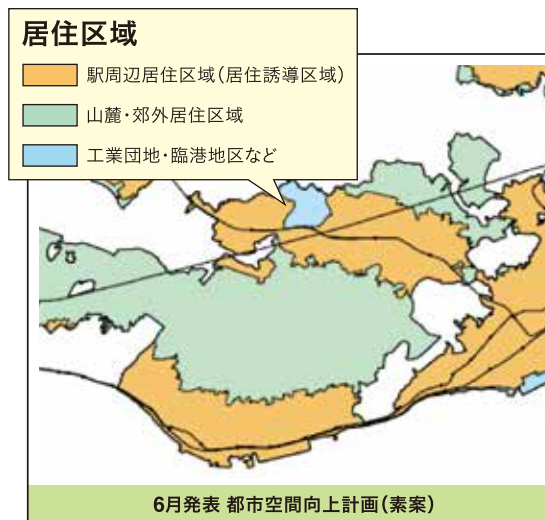
垂水区50%→1.6%に縮小

神戸市は、鉄道駅からの距離だけで地域を線引きし切り捨てる「都市空間向上計画(素案)」を6月末に発表し、413通1176件もの市民意見と議会からも線引きに反対意見があがったことを受けて、昨年10月31日に見直し案として計画(案)を発表しました。

計画(素案)時点では、鉄道駅から1600mの範囲を「駅周辺居住区域(居住誘導区域)」と「山麓・郊外居住区域(居住誘導区域外)」とに線引きされていましたが、計画(案)では、鉄道駅に加え、片方向運行が100本以上のバス停から500mの範囲を「駅・主要バス停周辺居住区域(居住誘導区域)」と発表。こ

れまで「山麓・郊外居住区域」(下図のうす緑色の部分)と指定されていた区域のほとんどが、居住誘導区域となりました。みなさんの不安や怒りの声、大きな運動が事実上、計画破たんへ追い込みました。一方で、計画(案)では、「山麓・郊外居住区域」が桃山台7丁目や朝谷町、下畑町に一部残されることと、垂水駅前の過密化の問題が残されています。

日本共産党神戸市議員団は、切り捨て地域をゼロにし、一方的に差別を受けるようなことなく、安心して暮らせるよう地域のみなさんと一緒に頑張ります。



お気軽にご相談ください

日本共産党 垂水生活相談所

TEL 705-1700

市会控室 〒650-0001 中央区加納町 6-5-1

TEL 078-322-5847

ご挨拶

謹んで新春のお慶びを申し上げます。
 神戸市会へ送っていただき、早いもので9年となりました。改めて、本当にたくさんの方々に支えられていることに感謝するとともに、神戸市を、灘区を住みやすい街にしたいと決意を新たにしています。
 昨年を振り返ると、神戸市は人口減少が全国ワースト1の自治体となり、安倍政権に追随する久元神戸市長の市政運営の転換が強く求められると感じています。また須磨区の小学校における教員間のいじめ・暴行事件が起こるなど、教育改革も待たなしです。
 市民のみなさんと力を合わせれば、市民のくらしや教育は必ずよくなります。
 2020年も、年初から灘区のみなさんと力を合わせて、全力でがんばります。灘区のみなさんの引き続きご協力をご指導を、お願い致します。



あじ ぐち 味口としゆき

神戸市会議員

市民と日本共産党の共同の力で、 郊外・ニュータウン切り捨てに、“待った”をかけました!

10月に公表された都市空間向上計画(案)では、「鉄道駅」からだけでなく、「バス停」も考慮され、灘区の住宅地から、切り捨て地域(山麓・郊外居住区域)がなくなりました。

「計画(6月素案)」に対して、鶴甲会館では、地域のみなさんが集まり、神戸市の担当者と呼び「出前トーク」が

行われました。会場溢れる65人の住民からは、「人口減少を鶴甲では工夫次第で防げる。この計画は『ここに住んでほしくない』という市のメッセージだ。こんな便利な地域を指定すべきではない」など、神戸市が強行しようとする「都市空間向上計画」にたいする、道理のある質問や意見が寄せられまし

た。こうした取り組みが力になって、神戸市の「まち壊し計画」を大破綻に追い込みました。市民のみなさんと日本共産党の共同の大きな成果です。



鶴甲会館には会場あふれる住民が集まりました

住みよい灘区の実現へ全力

「計画(案)」では、三宮や都心には、巨額の税金投入などで一極集中の再開発を強行しようとしています。灘区でも駅周辺の過密化をすすめることで、小学校での仮設校舎、保育所

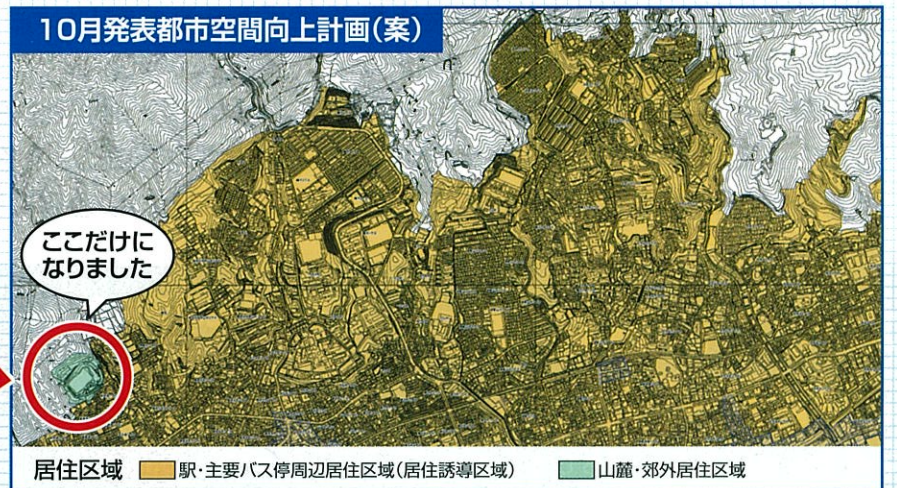
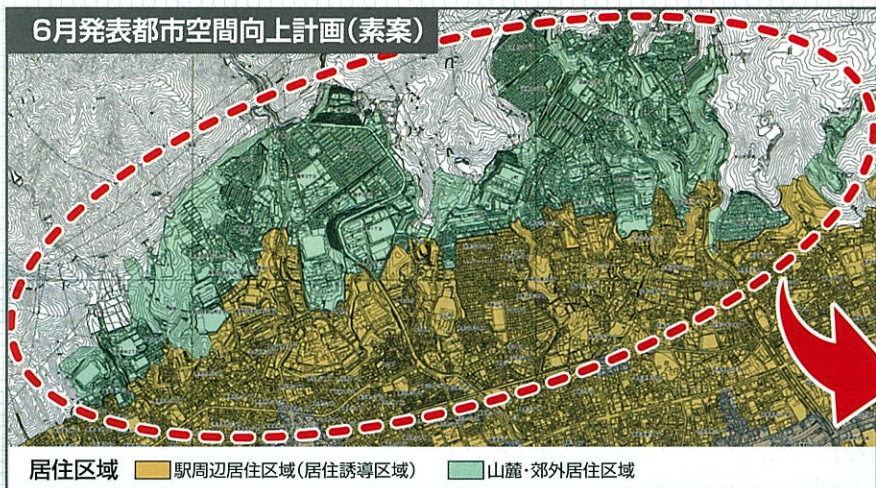
の待機児童、特別養護老人ホーム不足がさらに悪化することが懸念されます。

まちづくりは、安倍政権がすすめる「大企業が一番活躍しやすい」国

づくりにあわせた大型事業ではなく、高齢者から子どもまで、住みやすい地域づくりを優先すべです。

灘区民の願い実現へ頑張る決意です。

山麓・郊外居住区域(切り捨て地域)は、灘丸山公園のみに



「計画(6月素案)」では、灘区の鶴甲、六甲台町、一王山町、大月台、篠原台、篠原伯母野山町、長峰台、箕岡通、桜ヶ丘町、土山町、高羽、水車新田、篠原、大石が切り捨て地域(山麓・郊外居住区域)に指定されていましたが、「計画(10月案)」では、灘丸山公園のみとなりました。

市民のみなさんの願い実現へ、東奔西走



敬老パス・福祉パス制度

高齢者・母子世帯支援施策の存続を

神戸市の「見直し」方針(概要)

- ①敬老無料乗車券の廃止
- ②バス近郊区における110円上限の廃止
- ③母子世帯を福祉パス対象から外し、ひとり親世帯の高校通学定期補助に縮小

「敬老優待乗車証の対象者は現行を維持します(70歳以上、所得制限なし)」「(福祉乗車制度は)障害者・原爆被爆者・戦傷病者・中国残留邦人等支援給付世帯は維持します」と明記。

神戸市が、敬老優待乗車制度・福祉乗車制度(敬老パス・福祉パス)の改悪案を公表しました(左)。

この間、「敬老・福祉パス制度をよくする会」が結成され、短期間で2万4千筆も集めた署名運動と議会論戦が力に、「改悪」一辺倒の流れを押しとどめて、敬老パスの年齢引き上げや、福祉パスへの所得制限導入などは見送られました。

しかし神戸市は、3点での改悪に絞ってきており、2月18日からはじまる予算議会で強行しようとしています。

「よくする会」は予算議会までに署名を10万筆まで積み上げ「改悪」ストップを求めています。日本共産党神戸市議団は、みなさんと共同を強め、制度の維持拡充へ、全力でがんばります。

学校教育の立て直しを — 教員間いじめ暴行問題

全国に衝撃を与えた須磨区の小学校の教員間いじめ暴力問題について、日本共産党神戸市議団は学校教育の立て直しへ、全力を挙げています。

味口としゆき議員は、同校の保護者から直接、悲痛な思いや要望をていねいに聞き取り、また、灘区内の

保護者とも対話を積み重ねています。

文教子ども委員会で「今回のいじめ、暴力、人権侵害は絶対に許されない」とした上で、かつて加害教員が担任だった児童が布団の中で泣いていたなど拭えないくらいの傷を抱えている深刻な影響を紹介。「いま何

よりも大切なことは、児童と保護者の心のケア、被害教員の二次被害防止だ」と求めました。

12月にもケア対策の緊急要望をおこない、教育委員会も、スクールカウンセラーの配置時間の延長などを約束し、実施されました。

子どもの権利の尊重を

子どもの人権が尊重されない環境が教員の人権侵害も一体に生み出されています。味口としゆき議員の調査で、子どもの人権が大切にされない状況は、灘区内の学校でもあるこ

とが明らかになっています。子どもが大切にされる教育と学校現場の実現へ、保護者や地域のみなさんと語り合い、頑張る決意です。



教育シンポジウムでの味口としゆき議員



中学校給食 美味しく、あたたかい給食へ力を合わせましょう

味口としゆき議員は、決算特別委員会・教育委員会の審査で、「中学校給食」の改善を求めました。神戸市は、保護者や中学生に「中学校給食に関するアンケート」を実施、その「結果報告書」が出されました。生徒アンケートでは、「中学校給食を食べない理由」という設問にたいし

て、「おいしくない(おいしくないと思う)」59.2%、「おかずが冷たい」31.6%と、「美味しくない」「冷たい」という声があがっています。

同時に、保護者も生徒も「小学校と同じ自校調理方式で」と答えています。

味口としゆき議員は、「保護者や子ども

たちの願いをかなえようと思えば、現在のランチボックス方式をやめて、自校調理方式にすべきだ」と求めました。教育長は「実施方式についても検討したい」と答弁し、「親子方式」(小学校で作った給食を、隣接する中学校に提供する方式)のモデル校を決め実施することを表明しています。

なんでもお気軽にご相談ください!

みなさんのご意見お待ちしております!

日本共産党灘区委員会

〒657-0043
神戸市灘区大石東町6-7-4
TEL.078-881-2581
FAX.078-882-5402
E-mail:aji1020@hotmail.co.jp

市会控室

〒650-0001
神戸市中央区加納町6-5-1
市役所1号館27階
TEL.078-322-5847
FAX.078-322-6165

味口俊之 プロフィール

1969年10月20日神戸市生まれ 灘区弓木町在住
2011年4月神戸市議会議員選挙で初当選 3期目
現在、文教子ども委員・市会運営委員会理事・党議員団総務会長
趣味:音楽鑑賞(ROCKから演歌まで)、銭湯めぐり
家族は、妻と息子(8歳)



学校再生のため全力でサポートを

12月6日に神戸市会本会議がひらかれ、日本共産党神戸市会議員団の山本じゅんじ議員と林まさひと議員が一般質問をおこないました。

神戸市立東須磨小学校の教員間いじめ暴行事件が発覚して2か月が経過しましたが、児童の心のケアや失われた学校や教員への信頼を取り戻していくためには、まだまだ時間が必要です。10月16日以来、保護者説明会は開かれておらず「結局うやむやにされ

るのではないかと不信感を抱く保護者も少なくありません。山本議員は、学校再生の主体者は教員や児童・保護者、地域関係者であり、その方々の意見や不安の声にも耳を傾け、ケアやサポートに全力をあげるよう求めました。

山本議員が

一般質問



質疑項目

1. 東須磨小学校事案
2. 須磨海浜水族園・海浜公園について
3. 須磨多聞線について

見を聞いていくべきだ。

長田教育長：今後しっかりと情報共有をしていきたい。

山本議員：スクールカウンセラーの常勤化や、教育委員

会として、子ども達や保護者、地域の方々や学校関係者も含めて話を聞く場所を設定し、サポートに全力をあげていただきたい。

業者との契約をしないよう強

く求めました。

答弁ダイジェスト

長田教育長：保護者会を開催するなど、保護者や地域の方々の意見を伺いながら、これからの学校づくりに取り組んでいきたい。

山本議員：正規教員や副担任の配置など、新たに担任になった常勤講師のサポートが

大事だ。早急に対策すべきだ。

長田教育長：指摘いただいた面については引き続き強力にサポートしていく。

山本議員：児童のケアのために地域関係者である学童保育や児童館、中学校の関係者などにもきちんと説明し、意

観光リゾート開発のために 須磨水族園の身売りやめよ

神戸市立須磨水族園の民間事業者による再整備・運営について市は、十分に説明してきたとしていますが、新聞報道されるまでほとんどの市民が知らなかったというのが現実です。高い入園料やシャチ

の飼育など、様々な批判の声があがり、署名活動も起きています。山本議員は、「多くの利用者に長年親しまれてきたスマスイ。利用者置き去りのまま再開発をすすめることはあってはならない」と民間

答弁ダイジェスト

岡口副市長：民設民営を前提とした民間事業者の公募の予算については議会で承認を得た。地元を含めた市民のみなさんに広く公表し説明をさせていただいた。

山本議員：民間事業者の提案に対して利用者が神戸市から意見を公式に求められたこ

とはない。これまで慣れ親しんできた施設とは全く違うものになってしまう提案になっている。そんな水族館は誰も望んでいない。普段使いの水族園が神戸の観光の核として位置づけられることで、市民や利用者から奪い取られかねない。まさに政府の観光戦略と一体であり、市民不在だ。

— 須磨多聞線 —

信頼関係をもって話し合いを

神戸市が須磨区西須磨地区に計画する「須磨多聞線」は、大気汚染などを懸念した住民が建設計画に強く反発し、1997年に公害調停を申請

しました。神戸市は、調停委員からの協議継続の勧告を拒否し、昨年7月、一方的に詳細設計に向けた測量に踏み切りました。同12月、4856名に

ものぼる建設に反対する周辺住民が市を相手に申し立てた第2次公害紛争調停について、市は「調停には応じない」との姿勢を示していま

す。山本議員は、「調停にも欠席し、話し合いすらすすんでいない。工事着工はすべきではない」と質しました。

答弁ダイジェスト

山本議員：来週(12月10日)に予定されている説明

会には、詳細設計すら示されない。昨年の会見で市長は(2面につづく)

「丁寧に説明して理解をいただく努力が必要」と述べているが、勧告を無視し調停にも欠席しているのは調停制度の存在意義を否定するものだ。

詳細設計も説明もできていない状況で、どうして着工判断ができるのか。

油井副市長：地域に対しての説明はさせていただくつもりだが、公害調停は第三者機関であり、法的に応じる義務はない。

りだが、公害調停は第三者機関であり、法的に応じる義務はない。

山本議員：この半世紀以上にわたる協議の歴史を受けと

めよ。調停に出席し、信頼関係のもとで話し合うためには、道路建設を前提とすべきではない。

神戸市の前向きな姿勢をみせよ

神戸市は、兵庫県バス協会からの負担金増加を求める申し入れを受け、敬老・福祉パスの在り方について、11月22日に見直し案を出しました。

①バス近郊区の110円上限を廃止→小児料金へ ②敬老無料乗車券の全面廃止 ③母子世帯の福祉パス廃止など、制度を維持するためには利用者

の負担が必要だとの内容です。

林議員は、「大病を経験し、病院通いは止めることはできないので、敬老パスは助かる。年金生活者をいじめないでほしい」「近郊区上限が廃止されれば、料金負担が3倍に上がる」などの利用者の声を紹介し、制度の維持を求めました。

林議員が

一般質問



答弁
ダイジ
クエスト

寺崎副市長：制度的な整合性を図るため、制度全体として長期的維持存続させるため、小児運賃に統一したい。

林議員：母子世帯から福祉

乗車証を取り上げる今度の見直しはやめるべき。常任委員会で、高校生の通学定期補助に切替えても、対象人数が減ってしまうと答弁された。改悪ではなく維持するべき。

質疑
項目

1. 敬老パス・福祉パス制度の改悪について
2. 都市空間向上計画について
3. 西区のまちづくりについて

—都市空間向上計画—

破たんした計画撤回を！

神戸市は、鉄道駅からの距離だけで地域を線引きして切り捨てる「都市空間向上計画」素案を6月に発表し、それに対して400通を超える市民意見、さらに議会から線引きに反対する意見があがりました。それをうけ、市は10月に主要のバス停からの距離も

考慮すると大幅に計画を見直した案を発表。今回の計画(案)では、西区の10数%がまだ切り捨て地域となっています。神戸市は元々、都市のスポンジ化(空き家や空地の増加)のリスクをあげ、この計画をすすめています。切り捨てられる地域=居住誘導区

域外(山麓・郊外居住区域)は大半が西区に残されますが、現在、西区は神戸市の中で空き家数・空き家率が最も少ない区であり、神戸市の説明と矛盾します。林議員は「神戸市が計画の根拠にして

いる国立社会保障・人口問題研究所の推計でも、西区の人口減少率は神戸市全体よりも低い。人口減少リスクを強調しておきながら、なぜ西区を切り捨てるのか」と質しました。

答弁
ダイジ
クエスト

油井副市長：駅から離れたエリアは人口減少リスクが高いと考えている。早い段階から課題に対応したいと設定している。

林議員：マンモス校の地域を今からさびれるからと線引きしても、住民は納得しない。破綻した計画の潔い撤回を求める。

市長自身がそごう残留の直談判を

西神そごう店は、2020年8月に撤退すると突然の表明をしました。一方的な表明は衝撃をもって西区市民に受け止められています。この間、神戸市はそごうの求めに応じて賃料を値下げして支援してきました。その額は19年間で47億円にもなっています。わが

会派は交通局審査で、そごうに対し事業継続の働きかけを求めましたが、市は「社長決済だ」との理由を盾に、そごうは応じない旨の答弁をしました。林議員は「市長が直接社長に直談判して撤退の撤回をせまるべきだ」と強く求めました。

林議員：JR西日本がモトコー商店街の追い出しをはかったとき、わが会派の議員の質問に、市長は「神戸から外に出て行くのを防ぐために、そういう事案であれば私も全力でやります」と答えている。今こそ市長の出番ではないか。

久元市長：そごう撤退は残念。後ろ向きではなく、撤退後どうするかが私どもの任務だ。

林議員：先日、そごう駅前でシールアンケートをしたが、皆さんの声は「困る」というものだった。市長自身が、そごうと直談判することを強く求める。

答弁
ダイジ
クエスト

岸田交通局長：今回突然閉鎖の決定通知を受けた。

後継テナント誘致が最優先と考え、庁内関係部署と連携して全力あげる。

11月27日と12月4日に神戸市会本会議がひらかれ、味口議員が議案質疑、松本のり子議員と大かわら鈴子議員が反対討論、西ただす議員が請願討論をおこないました。

各議員の質疑と討論は「日本共産党神戸市会議員団ホームページ」または「神戸市会ホームページ」本会議の「インターネット録画中継」でご覧いただけます。

声を上げれば 政治は動く



西 ただす
【東灘区】

山本じゅんじ
【須磨区】

林 まさひと
【西区】

朝倉えつ子
【北区】

今井まさこ
【垂水区】

味口としゆき
【灘区】

松本のり子
【東灘区】

森本 真
【長田区】

希望ある年に

市民と野党の共同で

維持・
拡充へ

おいしくて **あたたかく**

みんなと一緒に食べられる 中学校給食の実現へ 力を合わせましょう

神戸市は、保護者と生徒に「中学校給食に関するアンケート」を実施。生徒からは、「食べない理由」として「おいしくない」が59.2%、「おかずが冷たい」が31.6%との意見があがりました。

また、保護者・生徒ともに「小学校と同じ学校調理にしてほしい」と答えています。

日本共産党神戸市議団は「保護者や子どもたちの願いにこたえるためには、現在のランチボックス方式をやめて、学校調理方式にすべき」と求めています。

昨年の12月議会で、教育長は「実施方式についても検討」を約束。小学校でつくった給食を中学校に配送する親子方式のモデル実施を表明しています。

みなさん、ごいっしょに温かく安全で、安心してみんなで食べられる中学校給食を実現しましょう。

神戸「子ども署名（給食版）」

中学校給食の改善を求める請願署名

3月実施の「中学校給食に関するアンケート」で、多くの子育て世代が訴えているように、多くの「中学校給食」実現を希望しています。この署名活動は、保護者や子どもたちが「おいしくない」「おかずが冷たい」などの声を、市議会に届けるための活動です。署名は10月10日（日）の13時～16時、神戸市会館 大ホール さくらホールにて実施します。当日は、給食の現状や改善の必要性について、市議会議員から説明を受け、質問も受け付けます。当日は、お茶とお菓子も用意されています。当日は、お茶とお菓子も用意されています。当日は、お茶とお菓子も用意されています。

講演会開催
2020年2月1日（日）13:30～16:00
神戸市会館 大ホール さくらホール

お名前 _____

ご住所 _____

お電話番号 _____

お申し込み先：神戸の中学校給食を実現する会 TEL061-4401 FAX061-4560

今年中に10万筆
あつめよう！

9万筆もの神戸の中学校給食を実現する会の署名などが力に、スタートした中学校給食。今度は、あたたかい給食へ改善めざし10万筆署名に。

敬老パス・ 福祉パス制度は

高齢者無料券、近郊区上限、
母子世帯パスの存続を



神戸市は11月、敬老・福祉パスの「改悪」案を発表。この間、日本共産党神戸市議団と市民のみなさんが共同してとりくんだ署名運動が、「改悪」一辺倒の流れを押しとどめて、敬老パスの年齢引き上げや、福祉パスへの所得制限導入などは見送られました。

神戸市は、①敬老無料乗車券（年3万円）の廃止、②バス近郊区の110円上限を廃止、③母子世帯の福祉バスを廃止し、ひとり親世帯の高校通学定期補助に縮小など3つの方向に改悪を絞り、1月10日までの市民意見募集をへて、2月18日から始まる2月議会で改悪を強行しようとしています。

引き続き、敬老・福祉パス制度の改悪ストップへ、全力でがんばります。

市民意見募集は
こちら



2月議会までに
10万筆を！

敬老・福祉パス制度をよくする会が結成され、50日余りで2万4千筆あつめて市長に提出。「2月議会までに合計10万筆あつめよう」ととりくみをつよめています。

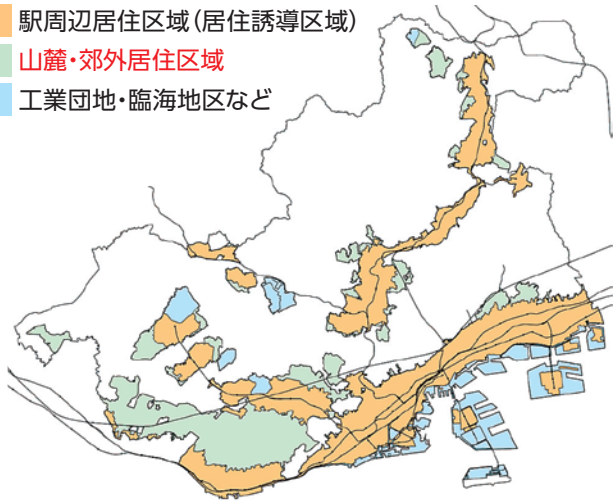
市民と日本共産党の共同の力で――

郊外・ニュータウン

切り捨てに“待った”!!

居住区域

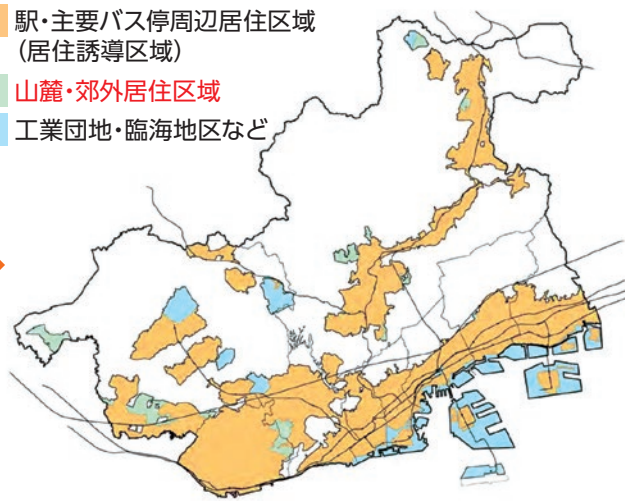
- 駅周辺居住区域(居住誘導区域)
- 山麓・郊外居住区域
- 工業団地・臨海地区など



6月発表 都市空間向上計画(素案)

居住区域

- 駅・主要バス停周辺居住区域(居住誘導区域)
- 山麓・郊外居住区域
- 工業団地・臨海地区など



10月発表 都市空間向上計画(案)



神戸市都市空間向上計画

人口減少を理由に、鉄道駅等からの距離で住宅地を区別し、ニュータウンや郊外開発団地を切り捨てる「山麓・郊外居住区域」にする一方、都心や駅周辺にマンション開発を誘導し過密をおしすすめる計画で、安倍政権がすすめる「立地適正化計画」の神戸版。

豪華新庁舎や三宮巨大開発よりも 市民の税金は、市民の暮らしに

「桜を見る会」の問題について、神戸市民からも「私たちが払った税金を安倍首相は私物化している」「消費税増税で苦しんでいるときに許せない」などの批判がでています。久元市長は、全国で例のない住民税増税を昨年6月に強行。さらに、「子どもの医療費無料が良ければ、三木や明石に引っ越したらいい」(職員研修での市長発言)、「敬老パス改悪と母子福祉パス廃止で)新たな負担を市民の皆さんにお願いする」など冷たい姿勢で、子どもからお年寄り、働く世代まで、全世帯に新たな負担をおしつけています。その一方で、三宮や駅前には「都市機能

誘導区域」として、巨額の税金投入で、マンション誘致や商業、医療、文化、行政機能を移転集約させ、一極集中の再開発をすすめています。 **タワーマンション頼みの駅前再開発は地域活性化に逆行** 市長は人口誘引策として名谷・垂水・西神中央の3駅近隣に5000人分のタワーマンションを誘致する駅前再整備を発表しました。しかしこの間、駅前にマンションを建てても、市内・近隣からの引っ越しが多数を占め、近隣住宅の空き家が増えて地域活性化に逆行する結果にもつながっています。

市民の税金は市民の暮らしに――。保育所の待機児童の解消や、子ども医療費の無料化、小学校や学童の過密解消、不足する特別養護老人ホームの整備など。日本共産党神戸市議団は、引き続き、市民の皆さんと力を合わせて、高齢者から、子どもまで、9つの行政区どのまちでも住み良い神戸の実現へ頑張る決意です。

神戸市が進める駅前一極集中の再開発計画

都心・三宮駅	三宮バスターミナルビル	1000億円
	市役所庁舎や中央区役所移転など 公共施設の再編	700億円
	この他、元町・県庁再整備、三宮駅前の2号館封鎖計画、ウォーターフロント再整備、文化ホール移転など	
駅前再開発(先行)	垂水駅	垂水駅では、新たなマンション建設で、小学校の過密化や待機児童の偏在化、機能集約によって体育館を利用できない市民がでるなどの問題がでています。
	西神中央駅	
	名谷駅	
	鈴蘭台駅	
	谷上駅	
神戸駅		

須磨海浜水族園につづき王子動物園までも 「観光リゾート戦略」で儲けの道具に



市民の公共施設で、子どもたちの「教育施設」である須磨海浜水族園(スマスイ)が、民間大企業のリゾート開発事業として売り渡されようとしています。民間提案では、新料金は大人3,100円、小中学生1,800円と大幅値上げ、のびのびパスポートでの無料入園ができなくなります。また、国際的に批判が高まっているシャチショーに特化しようとしています。

12月議会では王子動物園も問題に。自民党市議の「魅力化のために民間再整備を」との提案に、久元市長は「検討を進めるとともに、料金を見直し、まずは市外の子どもの無料の有料化に着手する」と答弁しました。こうした背景には、「魅力ある公的施設を世界に大胆な開放」するとした安倍政権の観光戦略の、地方への押しつけがあります。須磨海浜水族園や王子動物園の、民間再整備や値上げは、撤回すべきです。



子どもの人権第一に立て直しを 教員間いじめ暴行など学校教育問題

須磨区の小学校の教員間いじめ暴行問題について、日本共産党神戸市議団は同校の保護者から直接聞いた、思いや願いをもとに、緊急の対応策の実施や学校と教育の立て直しに全力を上げています。議会では「今回のいじめ・暴行、人権侵害は絶対に許されない」としたうえで、加害教員が担任だった児童が布団の中で泣いていたことなどから「なによりも、児童や保護者の心のケア、被害教員への二次被害防止を優先すべき」と求めてきました。12月にもケア対策の緊急要望をおこな

い、神戸市教育委員会から、スクールカウンセラーの配置時間の延長や、新たな担任クラスへの援助を強化するとの回答も返ってきています。また、六甲アイランド高校の自死未遂問題もあわせ、子どもの人権が尊重されない問題にメスを入れる必要があると指摘。教育長も「子どもの権利条約を活かすことを含め、検討していきたい」としています。ひきつづき、子どもたちが大切にされる教育と学校の実現へ、保護者や地域の皆さんと語り合い、頑張る決意です。

鈴蘭台幹線整備

まちづくりは住民本位に進めるべき



鈴蘭台駅前整備は駅前ロータリーなども完成間近となり、駅前につながる鈴蘭台幹線道路など周辺のまちづくりが課題です。神戸市は都市計画決定している鈴蘭台幹線道路以外にエリアを広げ、この一帯を「区画整理事業」で整備していこうとしています。そのため「まちづくり協議会準備会」をつくり、周辺住民にアンケート調査なども行っています。

しかし、アンケートは30%程度と低い回収率であり、とても住民合意ができていない状況にあります。

朝倉議員はこれまでも住民の皆さんの声をお聞きし、「鈴蘭台のまちづくりを考える会」の皆さんとともに、「1、鈴蘭台駅前北地区のまちづくりの素案は住民の理解と合意は未だ得られていないことから、十分に時間をとって合意を得るよう努力すること。2、事業手法についても、街路事業にするのか区画整理事業にするのか住民と丁寧に話し合うこと」を求めました。より良い住民本位のまちづくりを進めるために、力を尽くします。



教員いじめ問題 子どもの権利の尊重を

須磨区の小学校の教員いじめ暴力については、決して許されるものではありません。子どもの人権が大切にされない環境が、教員の人権侵害も一体に生み出しています。

朝倉議員は、同校保護者から直接、悲痛な思いや要望をていねいに聞き取りながら、緊急対応や学校立て直しへ全力をあげていま

す。子どもの心のケア対策を緊急要望し、スクールカウンセラーの配置時間延長や新たな援助強化を教育委員会から約束させました。

子どもが大切にされる教育・学校現場の実現へ、保護者や地域のみなさんの願いをお聞きし頑張ります。

市バス64系統は減便しないで！



北区
の交通
守ります!!

北神急行の市営地下鉄化により、早ければ6月にも谷上～三宮間の運賃は現行550円から280円に値下げする予定です。

しかし、神戸市は、谷上への新たな市バス路線を新設するため、既存の市バス64系統の路線を大幅に減便しようとしています。

地元の方からは「朝晩バス停に乗客は並び混雑するのに、なぜ減便するのか」「北神急行だけでなく、バス運賃も値下げしてほしい」などの切実な声があがっています。64系統の減便を止めるよう求めます。

市政へのご要望や身近なお困りごとなど、お気軽にお声かけください。

日本共産党神戸市議団 神戸市議会内 TEL.078-322-5847 ©党北区事務所 TEL.078-591-4755

地域の活動などをfacebookやTwitterで報告しています。



朝倉えつ子

日本共産党神戸市議員

発行：日本共産党神戸市議員団 〒650-0001 神戸市中央区加納町6丁目5-1
党市議団 HP: <http://www.jcp-kobe.com/>

希望ある
政治に！

声をあげれば
政治は動く

みなさんに支えられ、市会へ送っていただき5年経ちました。
神戸市は人口減少ワースト1の自治体となり、安倍政権に追随する久元市政の転換が求められています。
「勝手な線引きやめよ」「地域を分断するな」という多くの市民のみなさんの声が市政を動かし、神戸市都市空間向上計画（素案）は大きく見直しを余儀なくされました。国言いなりの都市空間向上計画は撤回すべきです。
地域のみなさんの声を力に、安心して住み続けられる神戸市、北区をつくるために、今年も全力で頑張ります。



図書館作って！

北区民センターの2階3階部分にある北図書館は、昭和49年に開設された古い建物です。図書館入り口の3階へは、エレベーターで行けませんが、2階へ降りるには階段しかありません。そのため「障がい児を抱えながら階段は使えない」「子どもも大人もゆったり過ごせる場所にしてほしい」など改善を求める声があがっています。

昨年11月29日、文教子ども委員会に「バリアフリーで充実した図書館の新設を求める」陳情が出されました。朝倉議員の質問に対し、教育委員会は「バリアフリーの視点からいろいろ問題ある」と認め「鈴蘭台



図書館をつくると、要望する皆さんと朝倉議員

駅前でのまちづくりの動きや、図書館はまちづくりの視点が大事と、今後地元の動きも十分にらみ、真摯に考えていきたい」と答えました。

旧北区役所や兵庫商業高校などの跡地活用も含め、新たな図書館建設を皆さんとともに求めます。

敬老パスは無料乗車券・近郊区上限110円を廃止しないで！ 母子世帯から福祉パス・無料パスを奪わないで！



12月11日敬老・福祉パス制度の維持拡充を求める市民集会

神戸市の見直し方針(概要)

- ①敬老無料乗車券の廃止
- ②バス近郊区における110円上限の廃止
- ③母子世帯を福祉パス対象から外し、ひとり親世帯の高校通学定期補助に縮小

神戸市が、敬老優待乗車制度・福祉乗車制度(敬老パス・福祉パス)の改悪案を公表しました。

市議会には、約2万5千筆の市長要望署名と、140件を超える陳情が提出されました。日本共産党は「有識者会議に当事者を入れ、市民の声を聞くべきだ」と求めましたが、久元市長は「署名は読めばわかる。それ以上意見を聞く必要はない」と冷たい態度に終始しています。

北区は今でも交通費が高すぎるのが大問題です。「敬老パス・福祉パスの維持・拡充のため予算をふやすこと」を求め、新たな陳情署名を大きく拡げ、市に声をあげましょう。



山と自然を壊す山田町太陽光発電は中止を!!

神戸市北区山田町の広大な山林に、民間事業者による大規模な太陽光発電所建設が計画されています。甲子園球場の29個分にもなる111ヘクタールの区域内に、40ヘクタールを土地造成し、発電出力は40メガワット、約18万枚の太陽光パネルを設置するものです。

神戸市は「大規模な森林伐採により貴重な自然環境を失ってまで、やみくもに再生可能エネルギーの導入拡大を求めるものではない」という市長意見を提出し、事業に深い懸念を示しています。

希少動植物は、未開発のまま残すエリアに移す方針ですが、専門家からは、カスミサンショウウオなど他の場所に移しても、元の生育地へ戻ろうとする帰巢本能が働くため、移設地では定着しない恐れがあると言われてい

ます。地域住民の多くが、昨年9月の新聞報道で

知る事態となり、懸念や不安の声があがっています。

昨年11月29日の市議会には、住民から「山田町での太陽光発電建設を中止してほしい」と陳情が出されました。日本共産党は「市長意見も踏まえれば、広大な自然を破壊してまでやる必要はない。陳情者も同じ思い」と指摘しましたが、環境局長は「現状では瑕疵はない」と言うだけです。

この問題では兵庫県弁護士会も「諸手続きについて厳格な運用を求める意見書」を議長に提出しています。

朝倉議員は、今後も住民の声を聞き取りながら、中止も含め計画の見直しを求めます。



太陽光発電の計画地域

中学校給食

美味しくて、あたたかい給食の実現へ力を合わせましょう



神戸市は「中学校給食に関するアンケート」を実施しました。その結果、「中学校給食を食べない理由」に対して「おいしくない(おいしくないと聞く)」59.2%、「おかげが冷たい」31.6%、という声があがっています。保護者も生徒も「小学校と同じ自校調理方式で」と答えています。現在の喫食率3割は、デリバリー給食の限界を示しています。

日本共産党は「保護者や子どもたちの願いをかなえるため、自校調理方式にす

べきだ」と求めてきました。教育長は「実施方式について検討したい」と答弁し、「“親子方式”(小学校で作った給食を、隣接する中学校に提供する方式)のモデル校を決め実施する」と表明しています。

朝倉議員は「親子方式モデル実施の検証は、1~2校と限定せず拡げること」「給食費は値上げするのではなく、市が財源をしっかりと措置すること」を求めました。

済生会病院・三田市民病院 医療連携会議開始される

済生会病院・神戸市・三田市民病院・三田市は北神・三田地域の急性期医療について連携をするとのことで、「第1回北神・三田急性期医療連携会議」を2019年11月21日に行いました。連携の内容として奨学金の強化、医療人材の育成、医療材料の連携に加え、業務的連携も入っています。2020年度末まで2か月に1度程度会議を行う予定ですが、診療科目の分化や統合に向けた話し合いに進むことが懸念されます。日本共産党は、北区や三田市のみなさんとともに、機能分化や統合をストップさせるためにがんばります。



三田市民病院(上)、済生会兵庫県病院(下)